

令和2年度第1回碧南市障害者差別解消支援地域協議会 会議録

1 日時

令和2年6月30日（火）午後15時00分から午後15時35分まで

2 場所

へきなん福祉センターあいくるダイルーム

3 出席者及び欠席者

(1) 出席委員 12名

碧南市社会福祉協議会 山田 正教（会長）

碧南市手をつなぐ育成会 牧野 昭彦（副会長）

日本福祉大学教授 青木 聖久

碧南市身体障害者福祉協会 鈴木 たか子

碧南市民生委員児童委員協議会 三田 恒夫

NPO法人ハートフルあおみ 水野 啓章

刈谷公共職業安定所碧南出張所 斎藤 健一

愛知県衣浦東部保健所 橋本 靖

西三河南部西障害者就業・生活支援センターくるくる 加藤 正昭

刈谷病院 水野 美香

碧南ふれあい作業所 竹内 涼

ふれあい工房アルゴ及びWHJ相談支援センターメビア 雲出 佑

(2) 事務局職員

福祉こども部長 杉浦 秀司

福祉課長 杉浦 浩二

福祉課社会福祉係長 河原 睦

福祉課社会福祉係主査 沼田 京子

福祉課社会福祉係主事 榊原 陵子

福祉課社会福祉係主事 澤田 直也

福祉課社会福祉係主事 杉浦 久美子

福祉課社会福祉係主事 板倉 尚宏

4 傍聴者

0人

5 議題

- (1) 令和元年度の取組について
- (2) 令和2年度の取組について
- (3) 県内の相談状況について

6 議事の要旨

(1) あいさつ（山田会長）

(2) 議題

ア 令和元年度の取組について

事務局より会議資料に基づき議題（1）を説明。

イ 令和2年度の取組について

事務局より会議資料に基づき議題（2）を説明。

ウ 県内の相談状況について

事務局より会議資料に基づき議題（3）を説明し、全ての議題について審議した。

<主な意見・質疑>

A委員：令和元年度については障害者差別に関する相談は1件もなかったとのことだが、0件だったから差別が全くないとは言えない。相談窓口がどこにあるのかわからない人もいるかもしれない。今年度の取組も昨年度と同じことをするのではなく、創意工夫することでもっとできることがあると思う。そうすることによって地域社会を変えていけるのではないかと思う。

B委員：障害者はあきらめの中で生活しているので、自分の力で窓口や自分の居場所があることを知ることは非常に難しいと思う。家族を通して、自身の仲間や居場所はあるよと伝えられる方法が重要だと思う。また、タクシー乗車を拒否されるのは電動車いすに限った話ではなく、通常の車いすでも差別されることもよく聞く。そのようなことがあっても声を上げられない人はたくさんいると思う。

C委員：障害者差別解消に関する啓発用のポスターはあるのか。

事務局：広報と市のホームページによる周知・啓発という方法は行っているが、市独自のポスターはない。今後は新たな取組みを検討したい。

D委員：盲導犬に関して言えば、テレビを見ていると犬が出てくるCMはかなり印象が残る。予算の問題もありCMを流したりするのは難しいが、窓口の存在を認識する機会が少ないのは確かだと思う。

7 まとめ（日本福祉大学 青木聖久 教授）

障害者差別に関して大切なことと、提案をまとめとして述べたいと思う。

一つ目は、障害者が声を上げられる町にすることが大切だと思う。窓口への相談が0件だったといってもみんな我慢しているだけ。相談をしたら周りにどんな目で見られるか、どんな扱いをされるのか恐れて相談できなくなる。そういう意味ではむしろ相談件数が増えた方が良くともいえるかもしれない。

二つ目は、障害に対して、制度も含めて理解することも大切だと思う。障害者への合理的配慮については公的機関は義務だが、民間企業は努力義務になっているという違いがある。障害とタクシーとの関連でいえば、どんな福祉制度があるかを知ることで障害の理解に繋がる。発達障害の人のなかには、おつりの計算が苦手なスーパー等でレジに並ぶのを恐れる人もいる。そういった障害の特性を知ることによって一般の人も障害者の行動を理解することができる。

三つ目は提案として、障害者が暮らしやすい町ということをしてPRするのも良いと思う。障害に関する啓発動画をつくりPRすることで、多くの人が障害を知るきっかけになると思う。例えば感覚過敏の発達障害であれば、会社の会議中に香水の臭いに耐え切れず、かといって声を出すこともできないためにのたうち回るしかないという人がいたとする。その人が感覚過敏であるということを知るだけでも、何故会議で特異な行動をとるのかがわかり、障害に対する理解に繋がってくると思う。

以上